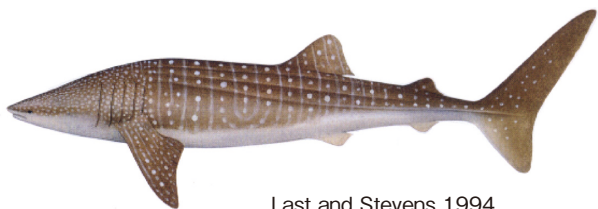


ジンベエザメ 日本周辺

Whale Shark, *Rhincodon typus*



Last and Stevens 1994

管理・関係機関

国際連合食糧農業機関 (FAO)
 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約, CITES)
 中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)

最近一年間の動き

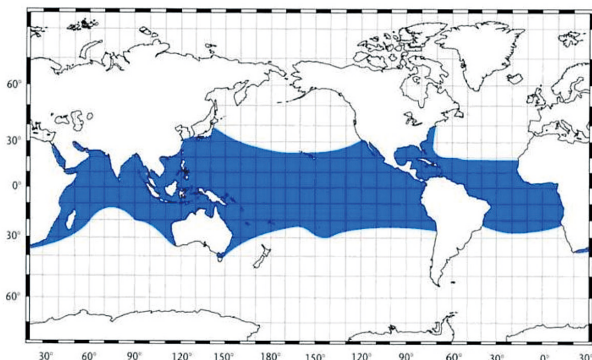
2012 年 12 月の WCPFC において、ジンベエザメを視認した際の付近でのまき網操業の禁止措置が採択された。まき網漁具に巻かれたジンベエザメを安全に放流するためのガイドラインが検討されている。また 2011 年の日本沿岸での出現は定置網等で 18 個体が確認されている。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 繁殖期・繁殖域：熱帯の外洋域？
- 索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：プランクトン、小魚（イワシ、サバなど）
- 捕食者：調査中

利用・用途

フカヒレ・肉は食用になるが、日本ではほとんど利用されない。まき網・竿釣りのさめ付き操業の指標となる。近年、定置網で混獲された個体が、いくつかの水族館で飼育・展示されるようになった。



ジンベエザメの分布

漁業の特徴

我が国では本種を対象とした漁業はない。定置網による迷入は主に沖縄本島から九州、四国太平洋沿岸で起きているが、水族館による需要も限定的であるので、普通、放流か廃棄され、ほとんど市場に水揚げされない。

漁業資源の動向

定置網による迷入は沖縄本島で 1979～1994 年の 16 年間に 78 尾（年平均 4.9 尾）、季節は 3～9 月で夏が多い。四国太平洋岸では 1989～1993 年の 5 年間で 25 尾（年平均 5 尾）、6・7 月が最も多い。日本周辺全体では毎年 2～23 尾程度である。

資源状態

日本に本種を目的とした漁業はなく、資源状態を定量的に分析できる資料はない。しかし、全国の定置網に偶発的な迷入の記録等があり、日本周辺海域には毎年一定程度の数が来遊してくると考えられる。

管理方策

2012 年 12 月の WCPFC 年次会合において、ジンベエザメを視認した際の付近でのまき網操業の禁止措置が採択された。なお、本種が絶滅の危機にあるとして、2002 年のワシントン条約第 12 回締約国会議のインド、フィリピン共同の附属書 II 掲載案が可決された。

資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

資源管理方策まとめ

- 定置網への偶発的な迷入等に関する継続した情報収集方法につき検討。

ジンベエザメ（日本周辺）の資源の現況（要約表）

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量（最近 5 年間）	調査中
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	年間数尾から数十尾程度の混獲？